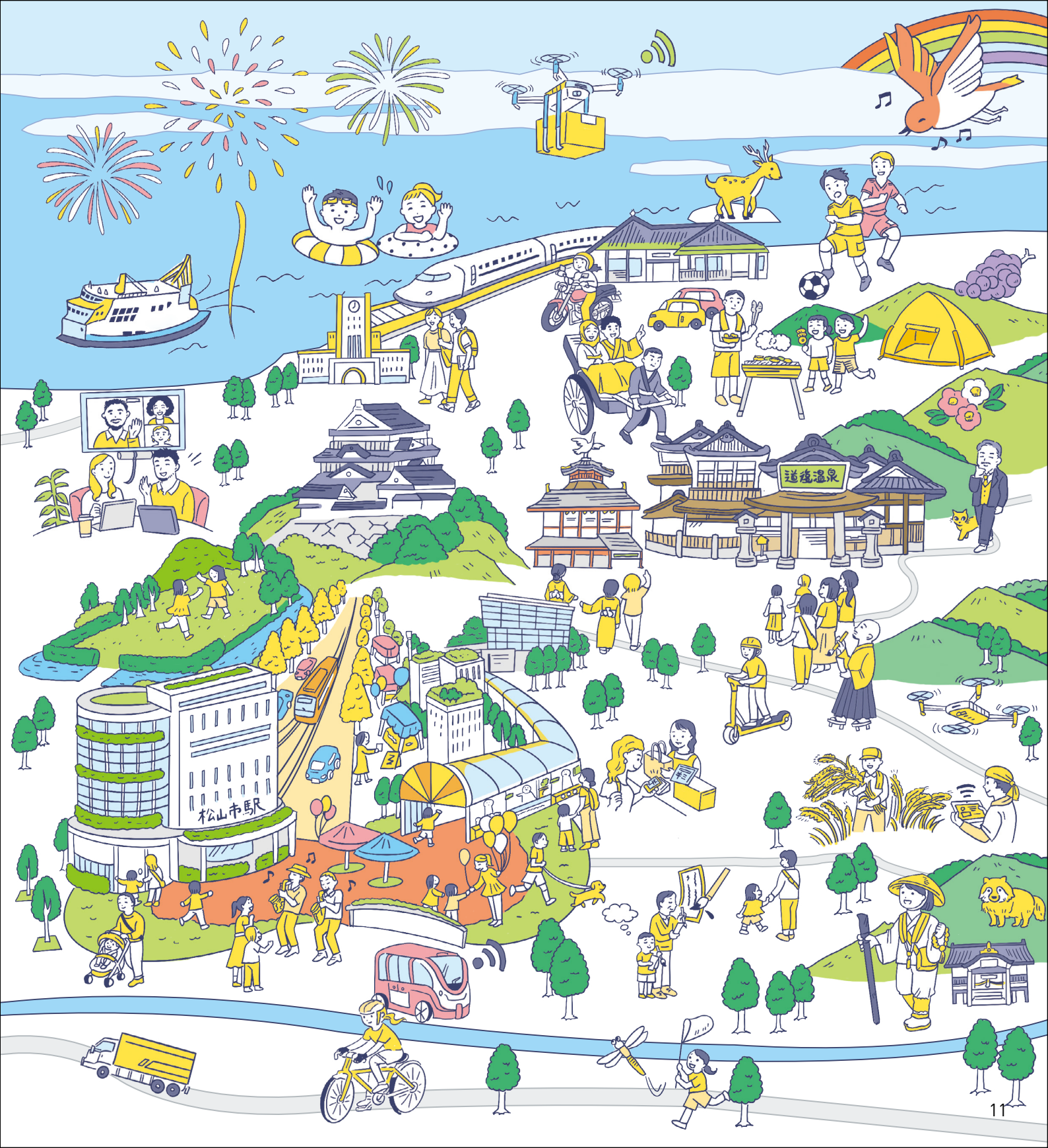


みんなで描いた理想の松山はこんなまち!

「こんなまちになってほしい」「こんなまちにしたい」・・・

みんなの思いが実現した「理想のまちの姿」は、

「人」「まち」「仕事」が繋がって、こんな風景になっているかも。



「理想のまちの姿」をもっと近くからのぞいてみましょう。

どんな様子が見えるでしょうか。

「人」が つながる

誰もがお互いを認め合い、「人」がつながる中で、一人ひとりのライフステージに合わせて充実した日々を送りながら、松山で安心して暮らすことができます。



子育てをする人が切れ目なくサポートを受けている。



いくつになっても学び、スポーツ・文化活動などにチャレンジができる。



こども・若者の意見も反映したまちになっている。



高齢になっても生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らしている。



海外との交流機会が増え、外国人住民との相互理解が進んでいる。



JR松山駅や松山市駅の機能が強化され、利便性が向上している。



瀬戸内の自然環境や生物多様性を大切にしている。



道後温泉・松山城などの地域の魅力がWEBやSNSを通じて世界中に発信されている。



鉄道やバス、航空機、船など、公共交通ネットワークが充実し、便利になっている。



文学のまち松山のあちこちに温かな「ことば」があふれている。

「まち」が つながる

国内外のさまざまな「まち」がつながり、地域の特長をいかすことや文化・スポーツなどの交流で、にぎわいが生まれ、松山の魅力がさらに高まっています。また、安全・安心で快適に暮らせる都市環境が将来にわたって続いています。

「仕事」が つながる

誰もが自分らしく働くことができる環境があり、仕事にやりがいを感じています。さらに、さまざまな産業が協力し合い、市内外で「仕事」がつながり、人や物、情報、企業が集まることで、地域経済に活力が生まれ続けています。



場所を選ばない働き方ができている。



農林水産物の品質やブランド力が高まり、生産者の所得が増えている。



IT人材の育成や起業支援、DXが盛ん。



産学官が連携し、イノベーションを生み出している。



障がいへの理解が進み、地域や社会の中で自立して生活できる環境が整っている。

みんなで目指す将来都市像

これからの10年間で実現を目指していく、松山市の将来都市像は、

人、まち、仕事がつながる交流拠点

『SETOUCHI まつやま』

です。

古くからの交流の要所

観光都市

自然と都市部が
バランスよく同居するまち

文化や歴史などが
満ちあふれた独自の雰囲気

松山

第3次産業
が活発な都市

松山には、豊かな自然や歴史、文化財、文学的土壌など、
先人たちから変わらず受け継がれてきた多くの宝があります。

これからのまちづくりでは、それらの宝を継承し、魅力を更に高めた上で、
次の世代へと、しっかりつないでいくことが大切です。

多くの
ヒト・モノ・文化
が往来

世界から認知されている
「SETOUCHI」

世界ブランドのエリアとして
海外からも人気

人口が減少する中でも、市民の声、
特に次代を担う若い世代の声を聴き、
新しい技術も活用するなど、
市民のウェルビーイング※実現に向けて

「つながる力」で挑戦します。

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、
安心して「人」がつながり、

市の内外、そして世界へと「まち」がつながり、

職業や働き方、住む場所を超えて「仕事」でつながることで相乗的に効果を発揮し、

世界が注目する「SETOUCHI」で、多くの人と文化が交流する拠点として、

住み続けられるまち、住み続けたいまち、

そして若い世代からも選ばれるまちに向けた取組を進め、

一人ひとりの幸せが実現するまちを目指します。

※ウェルビーイング … 心身ともに健康で、社会的にも満たされている状態

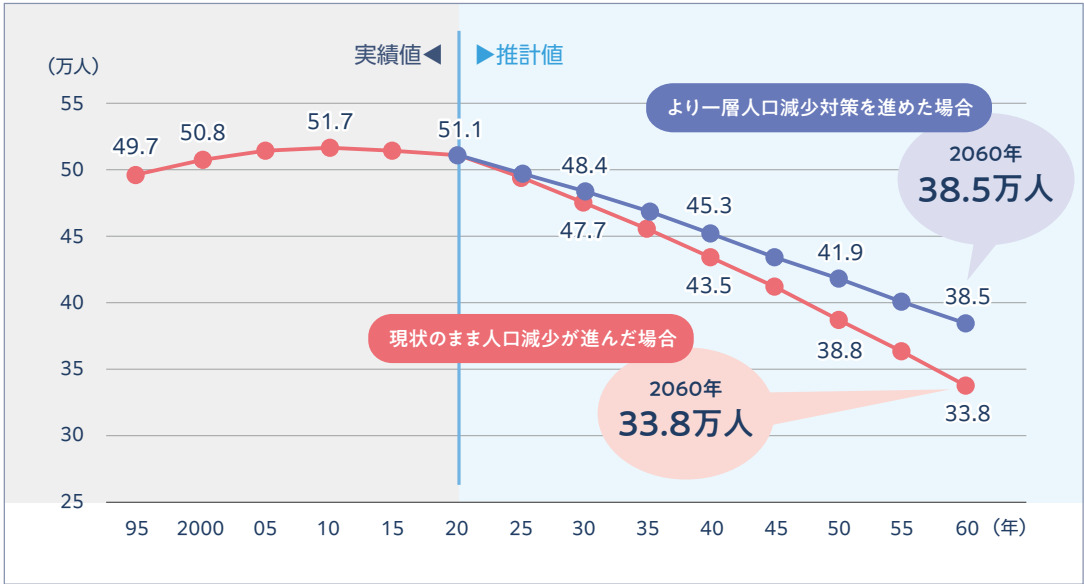
松山市の人口の今とこれから

地方都市のまちづくりでは、人口減少対策が重要なカギになっています。
人口が減少する大きな要因は、若者が市外に出てしまうことや、生まれるこどもの数が少なくなっていることです。
この状況が続くと、まちに住む若者や働く人が減り、
地域の元気がなくなったり、今よりも生活が不便になるおそれがあります。

では、松山市の人口はどうなっていくのでしょうか。
2020年の国勢調査で、松山市の人口は51.1万人でしたが、現状のまま人口減少が進むと、
2060年には33.8万人になることが予測されます。
しかし、より一層人口減少対策に取り組むことで、人口が減るスピードがゆるやかになり、
予測より約5万人多い38.5万人になることが期待できます。



《参考：2060年の松山市の人口を推計してみると…》



赤いグラフ … 以下の条件で算出した推計値
● 合計特殊出生率が「人口動態統計」(松山市保健所)の2018年から2022年の平均値
● 純移動率が2021年10月1日時点と2023年10月1日時点の住民基本台帳登録者数から算出した値
青いグラフ … 人口減少対策を進め、以下を見込んだ場合の推計値
● 合計特殊出生率が2060年に2.07、社会増減が2025年以降均衡

※「合計特殊出生率」：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの
※「純移動率」：特定の期間の転入者数から転出者数を引いた純移動数の人口に対する割合
※「社会増減」：転入と転出による人口の増減

これからのまちづくりに大切な視点と進め方

人口が減少するなかでも、
安心して暮らし続けられるまち、一人ひとりが幸せを実感できるまちを目指し、
次の3つの大切な視点をみなさんと共有し、
一緒にまちづくりを進めていきたいと思っています。

1 デジタル技術で社会の姿を変える

デジタル技術で、病院のオンライン受診や場所を選ばない働き方などができるようになり、暮らしの便利さや仕事の効率、まちの魅力を高めていくことができます。そこで、あらゆる分野でデジタル技術の活用を検討し、みなさんの「こうなったらいいな」を実現していきます。

2 知識や技術を組み合わせて課題を解決する

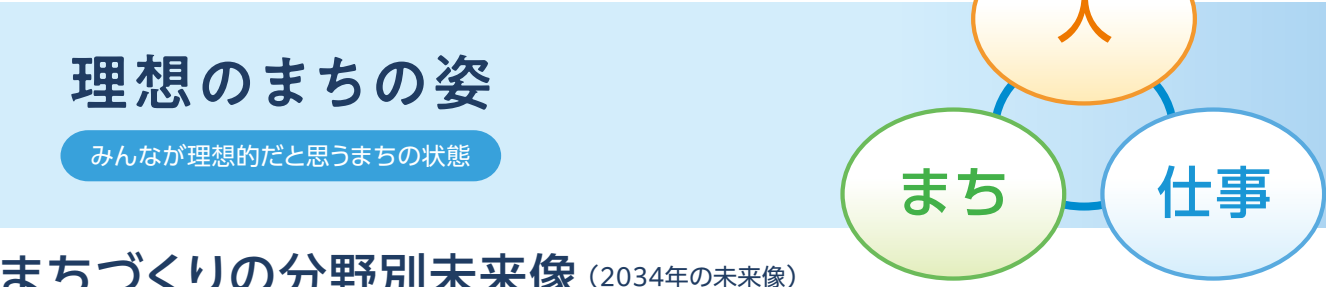
地域の課題にはさまざまな背景がからみ合い、一つの分野の取組だけでは、解決が難しくなっています。そこで、課題に対し、それぞれの主体の得意分野の知識や技術をいかして、つなげることで、これまでにないアイデアを生み出し、より効果的に解決していきます。

3 みんなで未来を創る

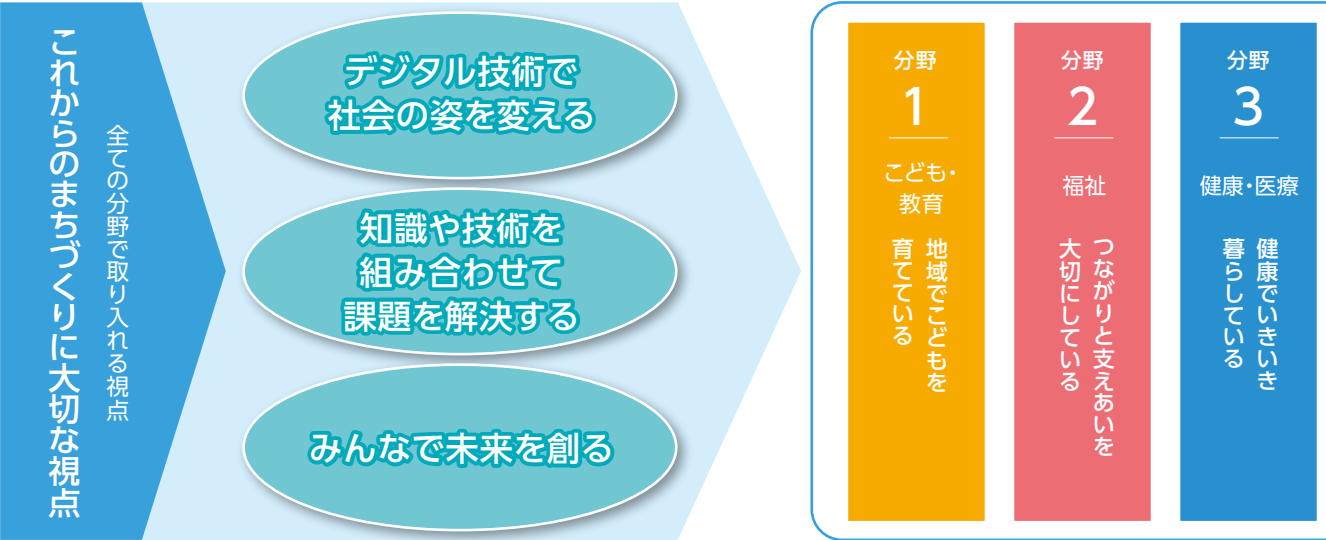
地域課題は複雑化・多様化しており、行政だけで解決できるものではありません。そこで、市民や事業者、関係団体のみなさんと目指す未来を共有し、それぞれが地域の経済や暮らしを支える担い手となってもらうことで、持続可能なまちづくりを一緒に進めていきます。

将来都市像の実現に向けて

みなさんの声から、「理想のまちの姿」が見えてきました。
「理想のまちの姿」を思い描きながら、これからの10年間で「将来都市像」を実現することを目指して、
11の「まちづくりの分野別未来像（2034年の未来像）」を掲げています。

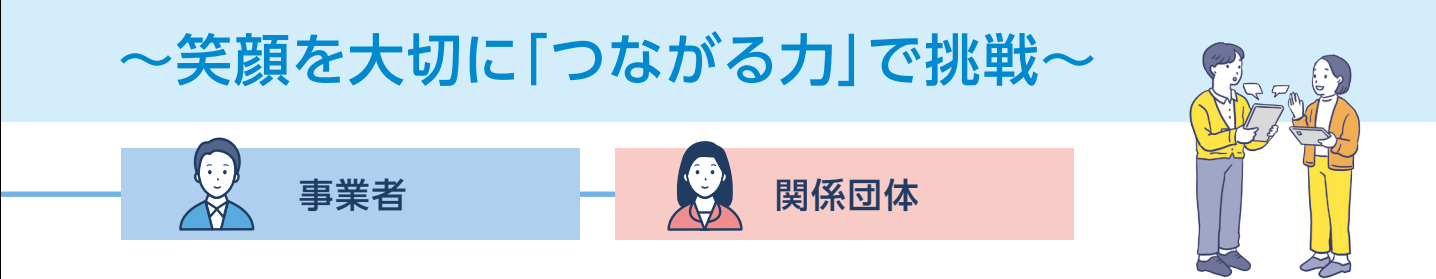


まちづくりの分野別未来像（2034年の未来像）
将来都市像の実現に向けて11分野でめざす未来の姿



理想の未来を実現するためには、行政だけでなく、市民や事業者、関係団体のみなさんなど、
一人ひとりがまちづくりを自分事としてとらえて「つながり」、自分のことから始めることが大切です。

笑顔を中心に、一人ひとりの幸せが実現するまちを目指し、「つながる力」で挑戦することを「まちづくりの理念」として、
みなさんと共有しながら、将来都市像の実現に向けて取り組みます。



松山には、たくさんの宝物がありましたね。

時代の変化をとらえて、より良いまちづくりにいかしていく

さまざまな視点がありましたね。

松山市がこれからみなさんと一緒に目指すのは

どんなまちなのかを知ってもらおうきっかけになったのでしょうか。



今日ここにある宝物を、明日へとつなぐ。

誰もが幸せになれる、未来を実現する。

そんなまちづくりに必要なのは

一人ひとりの思いと行動力です。

あなたにできることを考えてみませんか。

ふるさと松山のために、共に行動してみませんか。